

エ  
ツ  
セ  
イ

柔道を通しての  
出会いと成長

広島大学 教育学研究科 教授  
出口 達也 氏



2004年 アテネにて  
谷亮子選手(左)と阿武教子選手(右)と

今日の私があるのはまさに柔道のおかげであり、柔道なくして私の人生は語れません。柔道から非常に多くのことを学ばせてもらいましたし、これからも学んでいこうと思っています。柔道から直接学んだことはもちろん、柔道を通して出会った人々からも多くのことを学びました。柔道という太い幹を通して、たくさんの方の成長を助けてもらい、私という木が成長できたと感じています。

そのような私という木に、水や肥料を与えてくださったのが、恩師の先生方であり、その先生方との出会いと教えがなければ、ここまで成長しなかったと思います。この度は、その先生方の話をさせていただきたいと思っています。

中学生時代

(原孝典先生との出会い)

柔道を本格的に始めた小杉中学時代、私は体が小さく体力もなく、決して強い選手ではありませんでしたが、不思議と柔道が楽しかったです。その理由の一つが先生の魅力にあったと言えます。原先生は、大学を出たばかりの若くてとても厳しい先生でしたが、技術論は論理的で、練習内容も今考えれば中学生に必要な基礎体力がしっかりと身につくようなメニューでした。また、柔道だけではなく、様々なスポーツの話聞かせてくださったりと、好奇心旺盛な私たち中学生の心をしっかりと掴み、厳しさの中にも愛情あふれる指導をしてくださいました。また、当時は今と違い、大きな大会が少なかった中で、柔道という競技の楽しさや厳しさを難しさといった本質的な部分をしっかりと学べた貴重な時期だと思っています。

高校生時代

(橋川謙三先生との出会い)

高校は地元の強豪小杉高校に入学しました。橋川先生からは技術論よりは

むしろ勝負に対する厳しさや、執着心といった精神論を叩き込まれました。高校に入り全国大会というものを意識し、全国制覇という目標も掲げ、多くの合宿や遠征に参加させていただき、全国的な視野を身につけることができました。当時の小杉高校は強豪選手が集まり、私の周りには強くて運動能力の高い選手が多かったので、柔道センスが劣っていると感じていた私は、努力しかないと思います。常に人よりも多くの練習を積むことを心掛けました。そのことが自力と自信につながったと思います。高校3年時には目標であったインターハイで優勝することができましたが、これもひとえに橋川先生の情熱のこもった指導と、常に高いレベルで競い合いながら練習できた仲間がいたからだと感謝しています。

大学生時代

(中村良三先生との出会い)

富山県出身の中村先生との縁から、先生が監督をつとめられる筑波大学に進学しました。筑波大学では、多くのことが自己管理に任せられ、練習も自主的、主体的に取り組み工夫しながら行っていたかなければなりません。私にとつては、技術を見つめ、考え工夫する力を身につけることができた時期だと思っています。全国トップレベルの部員の中、今までセンスがないと諦めていた立技の魅力に気づき、様々な技を

習得できたのも大学に入ってからです。中学、高校、大学とそれぞれの時代に絶妙のタイミングで素晴らしい指導者に出会い、教えを頂いたことが私にとってとても幸せなことでありました。おかげで、大学卒業後には全日本の強化選手にも選ばれ、さらには現在、全日本女子ジュニアのヘッドコーチとして、日本のトップ選手の指導に携わらせていただいています。

指導者となった今日、私の恵まれた経験をもとに、どの時期に何を教えることが必要で有効なのかを常に模索しながら、その時期に適した出会いの相手となれるよう努力しています。そしてそのことが、私のさらなる枝葉となり、私という木を成長させてくれるものと感じています。

プロフィール

出口 達也 (でくち たつや)

- 1962年、富山県射水郡小杉町(現射水市)生まれ。
- 小杉中学、小杉高校、筑波大学卒業、筑波大学大学院修了。
- 1983年より10年間、全日本柔道ナショナルチーム在籍。
- 1986年フランス国際柔道大会(60kg級)優勝。
- 1987年講道館杯全日本柔道体重別選手権大会(60kg級)優勝。
- 1996年より現在まで、全日本柔道連盟強化コーチ。
- その間、橋川教子選手や谷亮子選手の担当コーチを務める。田知本姉妹のジュニア時代のヘッドコーチ。
- 1985年「とやま賞」受賞。